

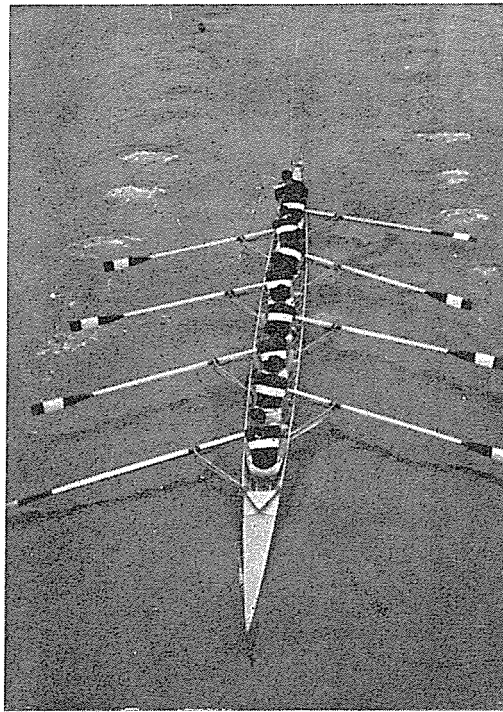
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, July 30th, 1957. No. 305

關西大學學報

昭和32年7月 第305号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年七月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通卷第三〇五号



力 漕 (ボート部)

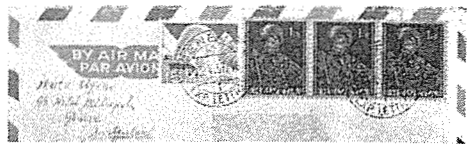
關西大學學報局

旅情しばしここに留めむ

海外研究員だより

—— エジプトからイタリアを経てスイスへ ——

植野郁太



四月二十九日夜、羽田を飛立つた杉原兄と私は快適な天候に恵まれ、まるで氷の上を滑るが如く、少しの動揺もなく西進し、五月一日カイロ着。二日見物して再び機上の人となりローマに着陸しました、そして五日

日ロンドンに直行した杉原兄と別れ、以後十日間ローマからナポリそしてローレンス、ベニス、ミラノとイタリアを列車で縦断して、十四日スイスに入りました。ベルンで三日いて現在ジュネーブにいます。ここでいままでの見物オンリーの旅のあかをおとします。日程の関係で二日しか余裕はありませんが、I・L・O・本部に行き研究資料を置くことにしています。そして二十四日にはチューリッヒから最初の長期滞在地ロンドン入りです。この機会に一文を章し、出発に際し種々と御世話になつた皆様への御挨拶にかえたいと存じます。眼前には広々としたレマン湖が展開し、その美しさには何度か筆をとるのも忘れず。

機上からの眺めはたしかに一面地図をみているようなものです。しかし刻々と変化していく、その地肌、海の色、複雑な海岸線、七折八曲の流れ、直線的な道路、運河、幾何標様の如き田畑、その間に転在する人家、木立。私はあきることなく眺め、またシャッター

をきりました。また途中着陸したマニラ、バンコック、カラチでの人々の容貌にも興味をもちました。マニラ、バンコックではどことなく我々に似ています。しかしカラチではすでに彫りも深く、西洋人を黒く染めあげた感じですが。カイロでのアラビヤ人には東洋的な顔立ちもかなりいましたが、混血らしいのも多くみかけました。黒いベールをかぶつた女もカイロの場末ではしばしば見受けましたが年寄りの多いようです。こうした女の写真を車中からとつたのですが、これは大変危険なこととみつかると袋たたきにあうと聞き胆を冷しました。しかし後にカイロからローマに飛ぶ時、カイロの飛行場にこのベールをかぶり、しかもすみの方で人に背をむけていかにも顔はみせないようにしていた二人の女がアテネについてみた時には勿論ベールもはずし、一般人と何の差もないような態度でいるのを見た時は何かいやな頓囁的なものを強く感じました。

さてカイロで私はスパティス、アラバスター、トウテンカームの三つの言葉をおぼえました。スパティスはソーダ水です。とにかく空気が乾燥しているために喉がかわいてたまりません。杉原兄と随分飲んだものです。アラバスターは旅行案内には黄色な雪花石膏と書いてありますが、半透明な大理石といったほうがよく解ります。この大理石こそかつてのエジプト文化の最大の素材のようです。トウテンカームとはエジプト第一王朝期の大王の名前でその金棺は我々にも以前から写真などで親しみのあるものです。とにかくこの大王の幾多遺品こそエジプト文化のシンボルのよう、エジプト博物館のガイドはこの名を何十回、いな百回以上も懸命に繰返し、それを鼓吹する姿に何かあわれを感じました。(トウテンカームはこのガイドの発音を耳に響いたままうつつしたもので絵葉書には King Tut Ank Amen となつています。)その他ホテルの右前にあつた裁判所の建物のグリーンの照明、城塞シタデルの内にあるモハメッド・アリ・モスクの美しさも印象に残っています。市街は後進国とはこうしたものかとの感を深くしました。丸之内そのけの立派なビル街、華美なショウウインド、モーターフルや有名レストラン前に並ぶ沢山の自動車、方々の石畳のうえに寝ころぶ人々、きたない市街電車のふちにぶらさがり、飛降り飛乗る、ぼろをまとつた大人子供二本三本のシガレットのばら売、屋台車で売る山盛の大豆、ホルモン料理、直経一尺もあるうかと思われどーナッツ形の黒パンの立売り、書きだせばきりがない。こうして二日間、実にはのんびりと見物できたのは一つにカイロの日本貿易輪旋所 (JETRO) の降幡、田中両氏、とくに田中氏の案内によるもので感謝の他にない。市街の散歩、野外映画見物、夜のドライブはいうまでもなく、浮浪者や実にしつこい、らくだ引きの群がるスフィンクヤピラミットの見物や、また丁度日本のあるお祭りの時で、大変な雑踏だつた夜の博物館前広場をとり、ナイル河畔にしばしの涼をとり得たのも実にそのおかげです。しかも最初に立寄つた外地でこうした機会に恵まれたことはその後の旅行

に、有形、無形どれほど役立つか想像以上です。重ねて心からの感謝の意を表します。また JETRO に紹介して下さった大阪市商工課にもお礼を申上なくてはなりません。

カイロからローマへの途上、カフリカ側の直線的な海岸線とギリシャ半島とその附近の幾多の島の複雑な海岸線も美しいものでしたし、アテネの町並も実に美しいと感じました。さてイタリーにおける十二日間の旅行、まさに言葉の殆んど通じない一人旅で、おのずから、列車と遊覧バスとホテルが中心で、それに若干散歩に出、街角のバーでビールかコココーラ、コーヒーを飲み、時にサンドイッチをかちるといつたやりかたをしていましたので特に組織的に頭に残るものもなく、ただ漠然と廻つてみたというに過ぎません。以下少し思い出すままに書いてみたいと思います。まずかねです。イタリーはインフレです、単位はリラで、一リラ六〇銭弱です。五ポンド、十ポンドのチェックをきるとまず五千リラの札をくれます。その大きいこと。菊版より少し小さいだけです。色ちがいで一万リラ札もあるそうですが、それはとうとう手にしませんでした。しかもそれがどんどん出ていくのですからこわくなります。ホテル代が二級どころで朝食つきで三千五百リラ程度、遊覧バスが半日で千五百リラから二千リラ、(ローマからナポリの日帰りは何と一万二千リラでした。)まじな夕食は二千リラ近くかかります。たとえ二リラ一円と換算してもまだまだ日本より高い勘定です。それに私等にとつて最も身近かなハイヤーの運転手、赤帽等々がつり銭をこまかしかかる、百リラやそこらならつり銭を出さない、何かとチップはいるといった具合ですから、たまりません。カイロで注意を受けてきたので、出来るだけ千リラの札

を使うようにしていましたが、とうとうミラノの駅のバーで千リラ出したのに五百リラ分しかつりを出さず、すずしい顔をしているので、さすがに私もはらがたち、思わず「こら」と云つて上衣をひつつかんでやった。はじめは何やら云つていたが、しまいはしつぶし五百リラ札を出したので、つり銭のはした六十リラやつて「グラシエ」(有難とうの意)と云つてやつた。これがあとにもさきにもたつた一度使つたイタリー語です。勿論すべてがそうであつたわけではなく、まともな方ははるかに多いですが、一度でもこうしたことがあると非常に印象を害します。またフローレンスでは駅の東口から西口の一寸先までほんの一丁ほどしかいかないのにハイヤーのメーターが四百リラにあがつていました。後日ベルンの大使館によつた時こんな話やまたローマ駅からミラノ駅まで手荷物で送つたら、無料でいけると思つたのに送料や荷札一枚に百リラも要求されたりして二千リラもかかつた話などしていましたが、まあその程度なら無難な方です、荷物も無事で結構でした、時々ひどい話を聞きます。と云われてまたびつくりしました。それからまた列車の乗りにくいにも困りました。改札はなし、イタリー語以外の表示はなし、駅名や発車ホームの表示もどこにあるのか解りにくく、それに一列車がはごとに行先が異つていて、途中でばらばらになつてみたり、また私の降りた駅はすべて内地の私鉄のターミナルのようになつていてどつちをむいて行くのやら見当はたらず、とにかくイタリー語のアナウンスが解らない限り厄介なもの、日本の国鉄があまり懇切丁寧すぎるのかも知れませんが、私もフローレンスからベニスに行く時には聞いていたホームに列車がはいつてこず、駅員にただした時は別のホームから出たあとで、とうとう駅

で四時間も待たされました。

悪い面が先に出ましたが、いい面も多々あります。ホテルの親切さは当然として、ローマ駅近くのC・I・T・(イタリーの交通公社)のいきとどいたサーピス、またローマからフローレンスの車中で一緒になつたイタリー人の親切さも忘れ得ないものです。ことにこのイタリー人が何かと沿線の景色を説明してくれた所で、なだらかな丘とみのつた麦を指さし「ミドーはヤンコルのために、コーンは我々のために」と云つたのが妙に耳に残っています。また「古いビレッヂは高いところに、新しいのはだんだん低いところに」とも教えてくれました。なるほどそうです。そして古いビレッヂのまた一番高いところにはそのシンボルのように枯色蒼然たる塔や教会がよくみられ、それが周囲の三、四階の古い石造の家屋、丘のみどりにはえて実に美しい。よい時季に来たものだと思います。日本でみられるような山は当イタリーに入り、アルプスが近くなつてからです。とにかく南の方では、なだらかなスロープの連続です。

さてローマ、フローレンスではローマの古代文化、ルネッサンスの作品が歩くところすべてに実にふんだんに横たわり食傷気味です。ローマのバスではバアテナイカン宮にその博物館、フローレンスではウフィツィ、ピティ両美術館等を訪れましたが、とにかくめまぐるしく、その質と量の桁はづれの老大きに圧倒されて、どこがどうだつたかさつぱり思い出せません。脳裡にやきつけられているところはやはり一人でさまよつたところ。ローマでは実に荘大な白大理石造りのヴィットリオ・エマヌエレ記念塔とその周辺の景色、そこから出ている二つの大通りヴィア・デル・コロソとヴィア・ナチオナーレです、ホテルがパンテオンの裏手で

あつたのも一生の思い出になります、夕方このホテルからあてもなく散歩に出たらたまたま上記の記念塔に出、いい気になつていたのはよいが、帰りがけ路に迷つて一寸青くなり、ポリさんに頼んでハイヤーでホテルに送つてもらつたことは今までも何度か思い出して苦笑しています。また法王が昼、バーティカン広場に面した窓に一寸顔を出す型にはまつた演技も思い出の一つです。こちらに来るまえ、シネラマで見た通りでした。フロレンスでは極彩色の大理石モザイクの装飾とゴシック式の大寺院として有名なドーモ、サンタマリヤ寺院です、とくにこの寺院ではじめて聞いたパイオルガンの音は腹にしみわたりました。ローマからナポリ、ポンペイへの十八時間にも及ぶ遊覧バス。少したかすぎるので躊躇しましたがやつてよかつたと思つています。ナポリ湾の風光明媚なドライブウェイもさることながら、ポンペイの廃墟に妙に心をひかれました。ベニスではいまでもなく、サンマルコ広場とゴンドラ、それに一間隔ぐらゐの曲りくねつた裏小路です。教会で結婚式をすませ、皆に祝福されつつゴンドラに乗つていく新郎新婦をみたのもんだおそえものでした。ミラノではイタリヤ最大と云われるドーモ寺院とそのそばにある大商店街です。子供の頃から一度みたいと憧れていたスカラ座の舞台も五階のプリマ・ガレリアからみることが出来ました。日中は戸をおろし、ただ小さく出しもののプログラムをはつているだけの全く装飾のない古めかしい建物。しかしその内部の豪華なことをみはるばかり。さらに九時十五分からでしたが、開演前まず中央の大シャンデリアの灯が次第にくらく消えていき、少し間をおいて周囲の灯がまた次第に消される。その間の敷きつめられ、はりめぐらされたくない色のカーペットと手摺、円柱の白色のおりなす美しさは格別でした。舞台はバレ-

で、オペラでなかつたのが心残りです。それからミラノで忘れ得ないものがいま一つあります。それは記念墓地です。実に美しく、その一つ一つの墓にみられる種々様々な彫刻、勿論新しいものもあります。私はここでイタリヤ人の血のなかに流れる伝統的な芸術的才能をまざまざとみせつけられた感じがしました。

こうして僅かな日数ながらイタリヤを廻つて感じたことはやはり石材がローマ文化、シネッサンスの基礎となつていふことと、勿論エジプトの場合のように単純ではありません、石の色にしても種々多数であり、そこにかつての領地、勢力範囲の広さを物語つていますが、とにかく石です。石は永遠に残ります。私たちのもつ木材はなかなかそうはいかない。ここにそもそも出発点からの大きな相違があると強く感じました。当然な解りきつたことかも知れませんが、何か私はどこでもこのことばかり頭にこびりついてはなれませんでした。こうした過去の遺産でなく、現在はどうか。それはいまの私には全く解りません。ただ遊覧バスで有名な工場として前後三ヶ所ほど案内してくれました。最初はホラ貝からビーナスの顔などの彫刻を主としたブローチ等の装飾品をつくる所、フロレンスの大理石モザイクの工場、そしてベニスの有名なムラノのガラス工場。それらはいずれもごく小規模な手工業ばかりです。観光と土産物の押売りのためにこうした所を案内したのでしたが、これが彼等の誇りかどがつかかりました。ムラノのガラスは特に期待していましたがおさらです。それからまたナポリへのバスで一緒に、横浜へも行つたことがあるといつて話しかけてきたニューヨークに住むというアメリカ人が、「ここは我々からみれば五十年も昔だ」と云つていたことを書添えておきます。「日本は何年昔だ」というかは聞きませんでした。

イタリヤ旅行中に私は五人の日本人に会いました、そのうちお一人はローマの中央駅のバーで列車の時間待ちをしていた時にお会いした農林省農地局の小川泰恵氏です、関大に長く教鞭をとつておられ私も何かと個人的にも御世話になつた小川忠蔵先生の御子息で、これからオランダに行かれる由でした。またの再会を楽しみにして三十分ほどで別れました。それからフロレンスでは鐘紡の常務取締役の玉川琢治氏に、ホテルの食堂とその翌朝先にも書きましたサンタマリヤ寺院に写真をとりに出た時と二度一寸お会いしました、一口書き加えておきます。

五月十四日私はシンプロントンネルを通つてスイスに入り、まず最初に首府ベルンに到着しました、実にきれいな、こぢんまりした都です、地図をたよりに歩いてみましたし、特にアール川ぞいの散歩は心よいものでした。コングフラウヨッホにも行つてみました、あいにく雨、頂上の方では雪でもみえず、アルプスの気分を喫い得なかつたことはいかえすがえすも残念でした。ただ三四四メートルと富士山よりなお一〇〇メートルも高いところに登れたというだけです。インターレーケンからここまでの鉄道、とりわけ途中のクライネ・シャイデック(二〇六一メートル)からヨッホまでの約一時間ほど、岩石をくり抜いた鉄道にはその難工事のほどがしのべれます。またアルプス登山口として聞きおぼえのあるグリンデルワルドの駅名表示板にもみいりました。ベルンからジュネーブへの沿線特にローザンヌ附近の景色もすばらしいものです。しかしスイスの自然の美は何か絵葉書を見るような整いすぎた美しさです、長くいるとあきがるかもしれないといつた感じがします。私の見物もここで一応終止符をうつこととなります。では皆様どうぞ御機嫌よろしく。さようなら。(五月十九日、ジュネーブ、メトロポリルホテルにて記す)

(教授 商学部)

出発に際してはわざわざ御見送りをいただき誠にありがとう存じました。お蔭を以て空路無事目的地たるロンドンに到着、諸般の手続きもすませ、後記のところに下宿を定め、いよいよ仕事を始める運びとなり

海外研究員だより

海外短信

杉原四郎

ました。その間先着の松原教授に万事御世話になり、予想以上に円滑に事をほこぶことができました。ローマでわかれた植野教授も、イタリ、スイスの旅をおえて一昨夜当地に到着されまして、明朝三人が今後の

打合せをすることになっております。私はロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに籍をおきましたが、現在のサマータイムは来月中で終り、七、八、九の三ヶ月は休暇になりますのでその間は、大学やブリテッシュ・ミュージアムの図書館の資料

をあさる一方、アイルランドやスコットランドなどを見学し、かたわら英会話の力を強化すべく努力して、十月からの新学年にそなえたいと存じております。今日の日曜は久しぶりの快晴ですから、午後にはハ

イドパークやピカデリー・サーカスはさぞ大へんな人出になることでしょう。しかしいくら雑踏しても、東京や大阪のさかり場とくらべると、ずつと少しずつ、おちついていっているロンドンの市民生活に私もでき気をかもし出しているだけに、その特質を内面から理解したいと念じております。

Hotel Monopoli,
44, Tavistock Square,
London, W. C. 1, England, U.K.

(教授 経済学部)

◆六頁より
◆商学部吉信肅専任講師は五月三十日より六月五日まで東北大学にける国際経済学界に出席。

◆文学部小野勇、堀正人、進藤浩二郎、榎本金次郎各教授、大西昭男助教、多田敏夫、藺田香融、山口辰男専任講師、名取栄史助手は五月二十一日より五月二十五日まで立教大学における日本文学学会に出席。

◆文学部飯田正一教授は五月三十日より六月二日まで三重県伊勢市における近世文学会に出席。

◆経済学部鑄方貞亮、矢口孝次郎両教授、荒井助教、津川正幸専任講師、商学部木田和雄助手は六月六日より十日まで東京大学における社会経済史学会に出席。

海外の大学より

ピッツバーグ大学より

図書寄贈

ピッツバーグ大学総長の好意により従来同大学学報 "PITT" の寄贈を受けていたが、この程同大学出版部より左記刊行図書を本学出版部宛寄贈して来たので、本学からは各学部の論集を寄贈し、爾後図書交換を行うこととなった。

Mary Cooper Robb, William Faulkner, An Estimate of his Contribution to the American Novel, 1957.
Harry John Mooney, the fiction and criticism of Katherine Anne Porter, 1957.

(九頁より)

京都支部定例総会

六月八日(土)午後五時より京都市「アサヒビヤホール」に於て昭和三十二年定例総会を開催。

今回は大学側より久井専務理事を迎える予定であつたが渡米準備多忙の為、安井校友課長が出席した。会は先ず岡田幹事の開会の辞、中野副支部長、岩佐評議員が挨拶をのべた後、木下幹事が議長となつて総会の議事に入り、橋本幹事が会計報告を行ったのち支部長の任期満了の為、新支部長の選出に入り万場一致で支部長は岩佐清三郎氏に決定した。

会長推薦に続いて安井校友課長が母校内外の近況について報告、又校友会活動に対して協力の要望があつて議事は終了。宴はなごやかに開かれ懐旧談に花を

咲かし、和気溢れ全く時の経つのも忘れて話は綿々と続いた。最後に岩佐新支部長の発声によつて関西大学万才を三唱、続いて学歌斉唱、盛会裡に閉会した。

出席者
大学側 安井校友課長
支部

- 山口多賀蔵 小寺辰雄 森茂二 大島節衛 高桑孝男 大槻正男 北野重治 木下忠夫 岡田浅次 野田実之 栗栖祐 松野行義 市田久夫 小松末雄 倉貫重治 清水勝 堀登光 山口友吉 西田秀吉 高木正紀 片岡恒次郎 市瀬喜郎 橋修 谷村信雄 佐々木六三郎 富永徳二郎 中野一雄 箕浦裕 高堂俊弥 森淳 近藤薫 山内哲司 吉沢恒郎 福永義洋 松本一郎 中沢孝 岡山茂 渡辺一夫 矢吹敏二 飯田栄司 藤原房雄 山本左一 長谷川誠三 仲西宗作 古川隆三 山豊太郎 政津見昭三 三木英雄 岩田安弘 犬養久雄 松本健吉 宇田三郎 虎谷圭太郎 坂井満 米田耕敏 田中嘉市 愛下正道 木村慎 脇孝好 久我謙三郎 赤岩幸男 中野翠 竹中倍治郎 西村善雄 平井貞夫 平田親郎 池田敬二 中橋栄太郎 松尾鐘 門吉朝生馬 橋本文宏 湯川増三 結城清

学内報

文部省科学研究費内定

昭和三十一年度文部省科学研究費交付金(各個研究)の審査結果は、この程内定通知があつたが、本学では飯田(文学部)福本(文学部)、安田(商学部)、矢口(経済学部)各教授が受領することになつた。

大阪俳諧史の研究 飯田 正一

十九世紀のドイツを中心として

みた外来語の研究 福本喜之助

経済の発展と金融機構

―特にアメリカの場合を中心として―

安田 信一

イギリス羊毛工業の総合的研究

矢口孝次郎

教育職員免許法認定講習会

本学では、毎年夏期休暇を利用して、文部大臣認可による教育職員免許法認定講習会を行つてゐるが、本年も七月一日(月)より八月九日(金)迄天六学舎で約六週間開講される。なお、開講科目と担任講師は左記の通りである。

種別	科目	単位	担 任 者
教職に関する	教育原理	4	教授 鈴木祥蔵・助教 本庄良邦
	教科教育法	4	助教授 寛田知義・京大助教授 小田 武
	教育心理学(発達・青年を含む)	4	教授 川口 勇・助教 辻岡美延
教科に関する	日本史概説	2	教授 横田健一・助教 有阪隆道
	人文地理学概説(地誌を含む)	2	専任講師 宇田米夫
	哲学概論	2	教授 大小島真二・教授 田中 熙
一般教	日本国憲法	2	教授 中谷敬壽

人事異動

昭和三十一年六月四日付
関西大学幼稚園長兼務を命ずる

教授 川口 勇

昭和三十一年六月十八日付
本大学教授に任ずる

助教 山本榮一郎

昭和三十一年六月十八日付
本大学助教授に任ずる

専任講師 大西 昭男

昭和三十一年六月三十日付
任期満了につき短期大学部長を解く

教授 河村 宜介

昭和三十一年六月三十日付
短期大学部長代理を解く

専任講師 山口 辰雄

昭和三十一年六月三十日付
短期大学部学生部長を解く

専任講師 角田 文雄

昭和三十一年七月一日付
短期大学部長を命ずる

教授 河村 宜介

学会出張

◆経済学部澤村榮治教授、有田稔専任講師、重田晃一、木村雄二郎両助手、商学部瀬尾美己子助手は五月九日より十三日まで明治大学における経済学史学会全国大会に出席。

◆文学部田中熙教授は五月九日より十三日まで島根大学における関西倫理学会に出席。

◆商学部賀屋俊雄教授は五月十四日より十九日まで東京商工会議所における商業英語に関する商業英語学会委員会に出席。

◆文学部上道直夫、高尾国男両教授は五月十八日より二十一日まで東京教育大学における日本独文学会総会に出席。

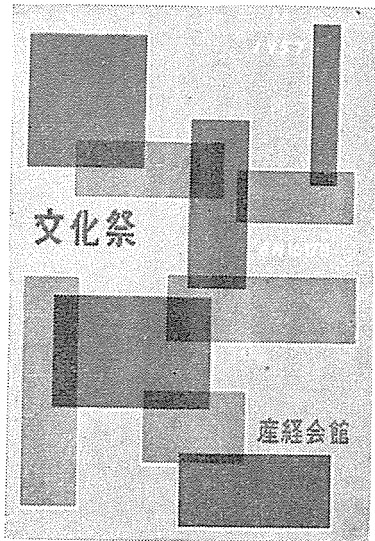
◆文学部福本喜之助教授は五月十六日より五月二十五日まで東京都立大学における日本独文学会に出席。

◆文学部大西昭男、多田敏男両専任講師名取栄史助手は五月二十四日より二十七日まで、立教大学における日本文学学会に出席。

◆商学部山崎紀男教授、柿尾昌哉助教授佐伯三郎、富山忠三専任講師、亀井利明、来住哲二助手は五月二十二日より二十六日まで慶応大学における日本商業学会に出席。

故 四辻詮氏を悼む

関西大学第一高等学校教諭四辻詮氏は病氣加療中のところ薬石効なく七月十一日自宅にて逝去された。なお氏は、明治三十五年愛媛県に生れ、昭和二年関西大学経済学部を卒業、関西大学附属第二商業学校教諭、北陽中学校教頭等を歴任し、関西大学第一高等学校教頭であつた。



文化祭

関西大学三大行事の一つである恒例の第十回関西大学文化祭は、学友会、文化会主催のもとで、桜橋産経会館に於て六月十日(日)、十七(月)両日に亘つて、関西大学の文化の華を、超満員観客を前に日頃の練習の全貌を遺憾なく発揮、さしもの産経会館ホールも拍手の波と批判や絶讃の声で充満した。

第一日 気づかわれた梅雨も晴れ、早朝の若葉に匂う風に吹かれ、学生、一般人も混雑会場産経ホールにつめかけ、早や文化祭らしい雰囲気に入れ、八時十分よりアカデミー賞に輝く「波止場」上映で文化祭の幕は切られた。続いて体育会各部を映画研究部の撮影で紹介される頃には、人、人の波に埋り、敵中副執行委員長の開会の辞となり、十時から雄弁会による激しい、力強い弁論が人々をうなずかせ、続く日本独特の能楽が場内に柔和

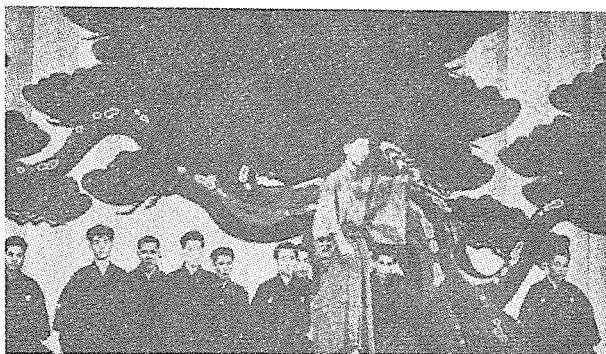
な空気を醸し、ハワイ「アンのメロデーに耳を傾ける頃、岩崎学長、白川理事長、石井教育後援会会長が、学生生活において、文化祭の意義などについて挨拶が終ると、軽音楽がホール内に軽く初夏の風と共に流れ、K・B・C・ボケットショーで

午前の部を終了、午後三時より邦楽「春の調」、黎明」等に日頃なじみの薄い学生も拍手を送り、四時より二時間軽音楽部によるウェスタン、コンボ、交響楽団のオーケストラ、男声合唱等に音楽ファンを喜ばせやんやの喝采をあびせた。最後に学園座のジャン・アヌイ作「泥棒たちの舞踏会」はある有閑マダムで人生終着駅も近い物好きな女の眼にとまつた劇でバラエティに富んだ演技を披露して文化祭の第一日を終了した。

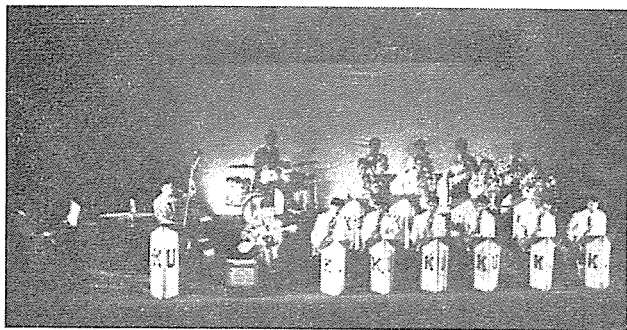
第二日 薄曇の朝、文化祭へと学生も一般の人々も早くもつめかけ、八時過ぎより「日本かく戦えり」の映画を上映、十時、ユネスコ研究部の劇は核兵器問題実体をとらへ、反対運動を理解し、学生らしい平和を願う種々の会話に現われた討論劇から文化祭のプログラムに入り、弁論では社会、政治問題をとらへ学生の熱意を表明、続いて、放送研究会の

「河童舞入」は、貧しい百姓の河童の約束で途方に暮れた爺さんの物語で、ホールがなんとなくなごやかな空気に満ちる観客もほほ満員となつた頃、若きにあふれる応援団吹奏楽部の行進曲が始まり、軽音楽部のハワイアン、スィングは前日と同じく人気の最高点で拍手のたへまなくなり、人々が音楽の波にホットした頃、物静かな茶道部の御点前、能楽で午前の部を終了、梅雨がしとしと降つて来て、日本情緒ゆたかな邦楽にて午後の

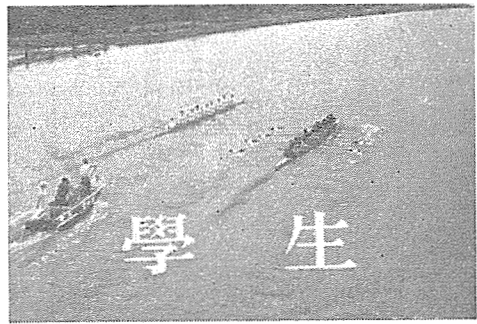
部の幕を上げ、コンボ、ウェスタンとプログラムは進み、吟詠部の吟詠に何か力強い感に打たれただ一心に聞いている学生が目立ち拍手を惜しみなくあびせた。学園座の演劇が劇ぜられ文化祭も最高調の雰囲気にも包まれる頃、外はずつかり春の雨は文化祭の終りに近づいたのを惜しむ如くぱらぱらと降る、九時近く津田総務部長の開会の辞にて本年度の文化祭も盛大な成功のうち関西大学の歴史の一頁をしるしながら静かに幕を閉じた。



能 楽



メロデーは流れる



柔道部

第七回関西学生柔道大会は、六月十六日大阪府立体育館で挙行。本学は、団体戦で大経大、和歌山大、甲南大、と順次破り、準決勝でも同大を降し、決勝で前年度全日本の覇者天理大と対戦、先鋒の笠木選手が上四方固めで一勝を上げ幸先よい先取点を上げたが、山田、池田、松江各選手が破れ3対1で優勝を逸した。次いで個人戦では、岩田藤原、笠木各選手が出場し、一、二、三回戦迄各選手共順調に勝ち進んだが、四回戦で藤原選手が破れ、準決勝戦で笠木選手が破れたが、岩田四段は豪快な背負い投げの大業で準決勝に天理の田村四

段、決勝で天理の杉尾四段を破つて、初優勝した。

記録(本学関係のみ)

団体 一回戦 関大7-10大経大

二回戦 関大7-10和歌山大

三回戦 関大7-10甲南大

四回戦 関大2-10同大

優勝戦 関大1-3天理大

個人

四回戦○笠木(関大) 一金森(大工大)

藤原(関大) 一〇八木(同大)

○岩田(関大) 一森谷(神商船大)

準優勝戦 笠木 背負投○松尾(天理大)

○岩田 背負投 田村(天理大)

優勝戦○岩田 背負投 松尾

全日本学生拳法選手大会に優勝

第二回全日本学生拳法選手大会は六月八日大阪府立体育館で挙行され、本学は一回戦より順調なすべり出しを見せ、同大、明大、立正大と破り、決勝にて関大と対戦、これを破り、全日本学生大会に二連勝した。

記録(本学関係のみ)

一回戦 関大 6-10 同大

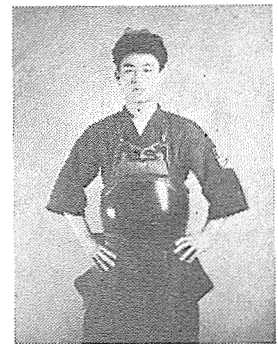
二回戦 関大 5-11 明大

準決勝 関大 6-10 立正大

決勝 関大 5-12 関学

大川博隆(剣道) 渡米

学生に於て初めての学生剣道親善使節団を米国に派遣する事になり、全日本学生剣道連盟より派遣選手団の一員として本学法学部四年次生大川博隆選手を派遣



渡米の大川選手

することに決定。選手団は七月下旬に出発し、九月中旬に帰国の予定である。

大川選手は、昭和二十九年奈良県郡山高機から本学へ入学、二年次(昭和三十一年)の春全関西個人戦撓技の部に三位に入賞し、日々の練習に励げみ、全関西学校対抗選手権大会に二年連続三位に入賞、その後の全日本剣道個人選手権大会で二位に入賞し、実力を着々と上げて本年の遣米選手選考会に出場、第一位にて選考され渡米が決定した。渡米中の活躍が多いに期待される。

陸上競技部

第二十六回全日本学生対抗選手権大会は、七月六、七両日長野県松本県営グラウンドで行われ、本学から多数の選手が出場、第一日目河野選手が走幅跳で五位に、平山選手が棒高跳で三位に入賞し、第二日目清水選手が砲丸投で二位に入賞した。

記録(本学関係のみ)

才 一日

走幅跳 河野 五位

棒高跳 平山 三位 三米九十九
才 二日
砲丸投 清水 二位 十二米九十一

関西学生ボクシング・リーグに優勝

関西学生ボクシング・リーグ最終日は七月十日大阪府立体育館で挙行、全勝の近大と優勝をかけて対戦、これを軽く7対2で破り優勝した。

なおこの結果により六月二十八日の第十一回全日本大学ボクシング王座決定戦で中大と後楽園アイスパレスで対戦、軽量級でリードするかと思われたが、フライ級から破れ8対1で中大に名を成さしめた。

記録

関西学生ボクシング・リーグ順位

優勝 関大 五勝 ②近大 4勝1敗

③立命 3勝2敗 ④関学 ⑤大経大

昭和三十三年七月三十日発行

関西大学學報 第三〇五號

大阪市大淀区长柄中通二丁目一二番地
編集兼 久井 忠 雄
発行人

大阪府北区川崎町三八

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所

電話(35)七二七一番

大阪府大淀区长柄中通二丁目

発行所 関西大学學報局

電話(堀川)三〇七二番
振替 大阪二六七二番



校友 バツチ

校 友

校友会本部の動き

(六月十六日―月末)

▽六月廿二日(土)午後一時から大学のPRをかねて学術講演会を岡山市産業会館ビルで開催、講師には岩崎学長、魚澄矢口の両教授で聴講者三百名盛会であった。同日午後六時から中国地区支部長会議を開く筈であったが、岡山支部総会に切りかえ、広島、備後支部から参加された。大学からは岩崎学長、矢口教授、校友会本部から大月会長、寺西組織副部長安井校友課長が出席した。

▽六月廿五日(火)午後六時から天六学舎で常議員会を開いた結果、代議員会を七月廿日に開催することになった。事業報告並に会館建設問題、秋の総会開催などを附議することになった。

▽六月廿五日(火)午後一時半から大正区支部発起人会、門上組織部長、安井校友課長出席

▽六月廿九日(土)午後二時、神戸商工会議所で支部総会、大学から白川理事長岩崎学長、桜田教授、校友会から大月会長、門上組織部長、安井校友課長出席。

芦屋地区在住新入並に新卒歓迎会

六月二日(日)午後四時十分より阪神電鉄芦屋駅前「声屋グリル」に於て、昭和三十二年度開西大学新入学者並びに昭和三十一年度新卒業生を歓迎する会合を開催。

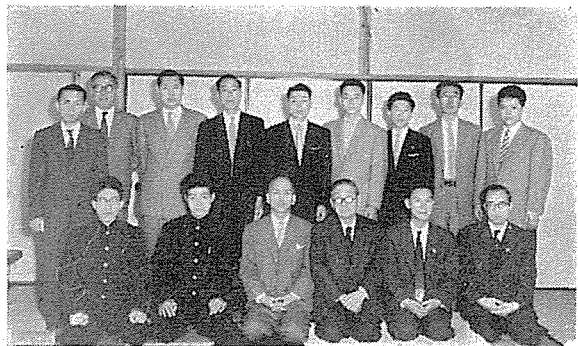
会は藤原芦屋支部幹事長の開会の辞に続いて、田辺支部長の歓迎の挨拶、並びに激励の辞があり、七十有余年の歴史と伝統を有する関西大学の学生として、又卒業生としての意義について話があった。その後山村氏より経過報告、行事計画の報告、祝電披露があり最後に安井校友課長から校友会の内容、運営、組織についての説明、及び会員に対する希望談があり、次いで賀屋商学部長の関大伝統談、近況報告があった。

記念撮影があつて一同なごやかに親睦会に入つたが、中でも越智比古市氏の母校愛談、塚本猶治郎氏の支部創設懐古談等は真に迫り、一同感激をおぼえた。

最後に学歌斉唱、万歳三唱して午後八時二十分名残り尽きぬ会を閉じた。

出席者

- 賀屋商学部長 安井校友課長
- 支部副 田辺由治郎 山村鶴千代 藤原仁 越智比古市 塚本猶治郎 小林重次 加藤信之助 加本哲也 北川寛志 佐久間時彦 渋谷憲明 野間徳太郎 前田伸一 難波隆 島崎晋治 福田裕昭 古坂純造 上坂浩治 油野治郎 池尻真喜雄 上畑晃 江村謙 松本弘美 山下清広 浜崎水爾 中村泰一 大江光生 菊池備四郎 樋口清土 村啓造 栗原正博 佐山明弘 佐藤栄一 助野吉正 福島達夫 宮本満夫 上向洋二 西本善弘



榎岡博司 木挽正次 市成隆志 大野昭 亀山和男 野島庄三郎 浜田雅義 薛屋寛三 北園方信 中正 車沖次雄 越江義沖 松岡章 小林洋平 石村吉男 秋永一正

福岡支部総会

福岡支部総会は、六月二十七日(土)福岡市新川端「平和楼」に於て開催。

時は丁度梅雨時ではあつたが空はからりと晴れ渡る好天氣に恵ぐまれ、週日ではあつたが校友多数の出席のもとに、総会はなごやかな空氣のうちに進み、自己紹介、高原氏、清原支部長

等の隠し芸、旧歓談等に時の経つのも忘れ愉快な会となり、午後九時一同学歌を斉唱し母校、校友会並びに支部の前途を祝し、万才を三唱して和氣霽々裡に散会した。

出席者

- 安藤 羊蔵 馬場 円吉 江口 忠太 遠藤 寛治
- 福原徳三郎 船原 英也 車 良二 東原 和雄
- 石橋 輝雄 岸田 哲雄 釘崎 春義 馬奈木忠夫
- 中村 敬直 長野 正英 中津留真一 小山田則孝
- 須田喜三男 正久 正起 辻本 修 寺崎 繁夫
- 徳久登美路 高瀬 卓二 高原 尚祐 渡辺次郎七
- 石田 孝之 豊田 一枝 清原俊之助

記念植樹申込者 (その八)

(七月十七日現在)

匿名氏	山桜	三本
橘	三本	ヒマラヤ杉 一本
山桜	二百本	ユーカリ樹 十三本
銀杏	十四本	メタセコイヤ 十一本

昭和31年

校友名簿

在学時代の友を想うよすがに、
また、卒業後の親睦連絡に、
この一冊を備えて利用下さい

―収載人員二六、〇〇〇余名―

B5判 六〇〇頁
実費頒価五〇〇円
(送料当方負担)

關西大學校友課

大阪市大淀区長柄中通二丁目
振替大阪一〇二八七五番

記念植樹募集

昨秋創立七十周年を記念して施設の拡充を図り、千里山及び天六両学園に近代建築の学舎を完成し得ましたことは洵に御同慶に堪えません。

さて、この構築美に配するに樹木や芝生の景觀美を以てし、造園技術の粋をあつめて、教育環境を形成することは、日々これに接する学生達にあるいは憩いの、あるいは思索の場所を与え、学習研鑽の資となるべく、また、学窓を出でては学舎と共に、一本の樹木にも母校への思慕の情を抱かしめるであります。

かかる教育環境形成の重要性に鑑み、本学では植樹造園につとめたいと存じておりますが、また有志の方々からこの趣旨に御賛同下されて樹木の御寄附にあづかり得ば幸甚に存ずる次第であります。

昭和三十三年三月

關西大學

何卒右趣旨に御賛同を賜りまして、単価表により樹木御指定の上左記宛御申込下さいます様御願申上げます。

一、樹木単価表

イ、楠	(高さ十尺、巾七尺、太さ目通一尺) 壹本一〇、〇〇〇円
ロ、銀杏	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通四寸) 同 三、〇〇〇円
ハ、南豆ハゼ樹	(高さ八尺、巾五尺、太さ目通六寸) 同 六、〇〇〇円
ニ、山桜	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通二寸) 同 五、〇〇〇円
ホ、ユーカリ	(高さ八尺、巾三尺) 同 一、五〇〇円
ヘ、メタセコイア	(高さ四尺一五尺) 同 一、五〇〇円

単価表の値段は送料、植込材工並に根着き迄(枯れた場合は植替)の責任保証となつていませぬ。

二、記念植樹御申込先

關西大學 校友課
 大阪市大淀区长柄中通二ノ一二
 振替口座 大阪 一七八七五番

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
 昭和三十三年七月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報

第三〇五號 七月號

關西大學法制史學會 共編
 關西大學經濟學會經濟史研究室

大阪周邊の村落史料

A5判 フランス綴箱入

本書は關西大學圖書館に所蔵されている貴重な村落史料のうち、庄屋文書といわれる庄屋の蔵に放置されていた記録を纏めて、法制史及び經濟史は勿論、一般史学やその特殊部門の研究に寄与せんとして公刊されるものである。庄屋文書のなかには、庄屋自身の任命、退役から、触、達、回状、農民の五人組、宗門改、検地、耕作、年貢、水論、新田開発は勿論、田畑建物の売買賃入、奉公人、人身売買、縁組、相続、遺言、往来手形、寺送り村送り等に至るまで、百般の法律行為に関する文書までが保存されているので、近世農民の法律および社會經濟生活はこれらの史料によつて明かになるであろう。

第一輯 (庄屋文書)

二二〇頁 頒価 金四〇〇円

既刊

本輯に選んだのは訴訟に関する書類の多い河州松原村、撰州味舌、耳原兩村の庄屋留書である。

第二輯 (耕地、拝借銀、頼母子)

一七〇頁 頒価 金三五〇円

既刊

本輯に選んだのは、農耕の基となる肥料と、その購入資金と入手方法に払つた農民の努力と法律関係、および金融、とくに御発起無尽と称せられる落政頼母子の運営等に関する書類である。

第三輯 (証文集、村役人)

二二五頁 頒価 金四〇〇円

既刊

(なお御入用の方は大學出版部へ直接御注文下さい)

發行者 關西大學
 發売所 關西大學出版部

大阪市大淀区长柄中通二丁目